

いのちの輝きを見つめる

Meiji

第147期
事業報告書

平成17年4月1日～平成18年3月31日



明治製菓株式会社

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社は、おかげさまで本年創立90周年を迎えることとなりました。これもひとえに株主の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます次第です。

さて、当社は3月31日をもちまして、第147期事業年度を終了いたしましたので、ここに事業報告書をお届けし、営業の概況等をご報告申し上げます。

当社グループでは、2005年度（2006年3月期）を最終年度とする中期経営計画「チャレンジ2005」に取り組み、当初の目標を超える利益水準を実現することができました。

この成果をもとに、この度、2008年度（2009年3月期）を最終年度とする新たな中期経営計画「DASH! 08」を策定しました。

新中期経営計画「DASH! 08」では、将来の進むべき方向を明確にし、当社グループが2008年度に目指すビジョンとして、


ブランドが、「おいしい・楽しい」「健康」「安心」というイメージで、お客様からより広く認知されている姿を追求してまいります。

連結売上高4,400億円、連結経常利益200億円の達成を目指してまいります。

上記の実現に向けた主要事業の取組みとしては、

菓子事業につきましては、既存商品のシェア拡大に努めるとともに、チルドチョコレート、高カカオ分チョコレート、ギフト等大人向けの市場開拓を他社に先駆けて展開してまいります。また、ガムについては、特定保健用食品の許可を取得するなど、一段と健康志向を推進してまいります。加えて、高品質で安全・安心な商品をフレキシブルにローコストで生産する「明治製菓生産方式（MPS）」を確立することにより、収益基盤を強化してまいります。

健康事業につきましては、確固たる地位を築くために、独自性のある商品の開発やお客様との関係づくりなどに努め、食薬兼業の強みを活かした特徴あるビジネスモデルを確立し、展開してまいります。また、株式会社明治スポーツプラザを中核と



昨年7月に食料カンパニーとヘルスケアカンパニーを統合・再編し、フード&ヘルスケアカンパニーを発足させました。これにより当期より事業区分を変更しております。

フード&ヘルスケア事業を取り巻く環境は、菓子の消費は依然として横ばいに推移するとともに、健康分野は拡大基調にあるものの新規参入企業も多く競争が激化し、厳しいものとなりました。

このような状況下、当社グループは、消費者ニーズを先取りした差別優位性のある新商品の開発や戦略的なブランド別マーケティングの展開により、売上の拡大に努めてまいりました。この結果、フード&ヘルスケア事業の連結売上高は2,644億10百万円（前期比5.0%増）となりました。なお、フード&ヘルスケア事業の前期実績は、従来の食料事業とヘルスケア事業の合計にて算出しております。

菓子事業につきましては、チョコレートは、消費者

市場の拡大に努めております。
また、ココアは主力の「ミルク
ココア」が堅調に推移しまし
たが、レトルトカレーは、店
頭販促活動を積極的に展開し
たものの減売となりました。

連結子法人等の業績につきましては、国内では、株式会社明治フードマテリアは、主力の砂糖における主要取引先との取引条件が変更されたことにより減売となりました。一方、明治チューインガム株式会社は、これまで培った商品開発力とマーケティングの強化により好調に推移しました。また、スポーツクラブ施設を経営する株式会社明治スポーツプラザは、昨年5月に東京ガススポーツ株式会社所有のフィットネスクラブを譲り受けたことにより大幅に業容が拡大しました。海外では、明治製菓シンガポール社は、現地市場および近隣諸国での増売により順調に推移しました。米国のスタウファー・ビスケット社も重点品目の絞込みと積極的な販路拡大により堅調に推移しました。

薬品事業におきましては、医療費抑制策の浸透、新薬開発を巡る競争激化や研究開発費用の増大等により引き続き厳しい事業環境が続いております。このような状況下、当社グループは、国内では、引き続き重点販売品目に資源を集中的に投下して積極的な営業活動を展開し、また、海外では、主力製品を中心に着実な学術普及活動により販売国の拡大を図りました。この結果、薬品事業の連結売上高は1,153億88百万円（前期比5.3%増）となりました。

医療用医薬品につきましては、抗菌薬は、市場が縮小する厳しい環境下において、主力製品の「メイアクト」「オメガシン」は好調に推移しました。一方、「ハベカシン」「ホスミン」は競争激化により減売となりました。

中枢神経系用薬は、抗うつ薬「デプロメール」が、専任のMR（医薬情報担当者）による積極的な学術普及活動に加え、わが国で初めて「社会不安障害」の適応承認を取得し、大幅な増売となりました。また、抗不安薬「メイラックス」も順調に売上を伸ばしました。

その他の医療用医薬品は、外用消毒薬「イソジン」は競争の激化により減売となりました。また、アレルギー性疾患治療薬「エバステル」は新製剤（口腔内崩壊錠）の市場投入の効果はありま

したが、当期は花粉の飛散量が前期に比べ少なかったことにより減売となりました。

農薬は、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が増売となり、総じて順調に推移しました。

動物薬は、抗菌剤の市場縮小や品目整理の推進などの減売要因もありましたが、積極的な営業活動が寄与し、前期を上回る売上を確保しました。

海外事業につきましては、高品質を特長に着実な学術普及活動を実施した飼料添加物「コリスチン」の大幅な輸出増に加え、「メリアクト」もトルコをはじめ欧州を中心に好調に推移し、大幅な増売となりました。

連結子法人等の業績につきましては、国内では、北里薬品産業株式会社は、インフルエンザワクチンが好調に推移し増売となりました。一方、富士アミドケミカル株式会社は、競合品との競争激化により減売となりました。なお、富士アミドケミカル株式会社につきましては、本年3月に南海化学工業株式会社へ当社所有の全株式を譲渡しました。海外では、東南アジアのP.T.メイジ・インドネシア社は、現地向け販売の低迷により減売となりましたが、タイ・メイジ社は、積極的な営業活動により「メリアクト」「ホスミシン」を中心とした現地向け販売が好調に推移し増売となりました。また、スペインのテデック・メイジ・ファルマ社も一昨年秋に発売した「メリアクト」の寄与により大幅な増売となりました。

薬品事業主要製品

医療用	抗菌薬（メリアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシン、シプロキサソールほか）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒薬イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍薬テラルピシン、抗ウイルス化学療法薬ビクロックスほか）、人体用ワクチン
医薬品	

連結損益計算書

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益	382,429	364,018
売上高	382,429	364,018
営業費用	365,968	355,300
売上原価	213,069	206,231
返品調整引当金繰入額	30	200
販売費および一般管理費	152,869	148,869
営業利益	16,460	8,717
営業外損益の部		
営業外収益	2,141	2,367
受取利息・配当金	507	458
持分法による投資利益	131	108
その他の営業外収益	1,501	1,800
営業外費用	2,441	2,581
支払利息	1,283	1,227
その他の営業外費用	1,157	1,354
経常利益	16,160	8,503
(特別損益の部)		
特別利益	1,570	2,946
固定資産売却益	1,161	2,558
関係会社清算益	315	
投資有価証券売却益		182
その他の特別利益	93	205
特別損失	1,309	23,779
固定資産廃棄損	904	950
関係会社株式売却損	20	
退職給付に関する未認識債務一括償却額		13,295
事業構造改善費用		7,337
その他の特別損失	384	2,197
税金等調整前当期純利益	16,422	12,330
税金等調整前当期純損失		
法人税、住民税および事業税	5,105	3,728
法人税等調整額	2,062	8,283
少数株主利益	575	464
当期純利益	8,678	
当期純損失		8,240

(注) 1株当たりの当期純利益 22円41銭

1株当たりの当期純損失 21円53銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
営業活動による キャッシュ・フロー	19,513	16,731
投資活動による キャッシュ・フロー	18,822	16,772
財務活動による キャッシュ・フロー	4,687	11,977
現金および 現金同等物に係る換算差額	105	21
現金および 現金同等物の増減額(減少:)	3,890	11,957
現金および 現金同等物の期首残高	22,646	10,688
現金および 現金同等物の期末残高	18,755	22,646

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独貸借対照表

(平成18年3月31日現在)

科目	当期	前期
資産の部	316,698	311,376
流動資産	128,105	137,454
現金・預金	11,693	16,937
受取手形および売掛金	67,120	65,465
商品・製品・半製品	20,958	20,417
原材料	7,159	8,428
仕掛品	8,445	9,662
繰延税金資産	4,975	4,771
その他の流動資産	7,768	11,813

単独損益計算書

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益	289,125	271,546
売上高	289,125	271,546
営業費用	277,660	267,132
売上原価	140,367	132,020
返品調整引当金繰入額	30	200
販売費および一般管理費	137,262	134,912
営業利益	11,465	4,413
営業外損益の部		
営業外収益	2,805	3,192
受取利息・配当金	1,211	1,183
雑収入	1,594	2,008
営業外費用	2,017	2,155
支払利息	1,067	1,045
雑損	949	1,109
経常利益	12,254	5,450
(特別損益の部)		
特別利益	1,941	2,091
固定資産売却益	910	1,889
関係会社株式売却益	634	
関係会社清算益	315	
投資有価証券売却益		182
その他の特別利益	80	19
特別損失	1,059	23,324
固定資産廃棄損	850	836
退職給付に関する未認識債務一括償却額		13,295
事業構造改善費用		7,137
その他の特別損失	209	2,055
税引前当期純利益	13,136	
税引前当期純損失		15,782
法人税、住民税および事業税	3,214	2,077
法人税等調整額	2,045	8,313
当期純利益	7,876	
当期純損失		9,545
前期繰越利益	1,430	2,841
中間配当額	1,341	1,340
事業再編に伴う剰余金受入高		1,115
当期末処分利益	7,965	
当期末処理損失		6,928

(注) 1株当たりの当期純利益 20円34銭

1株当たりの当期純損失 24円90銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

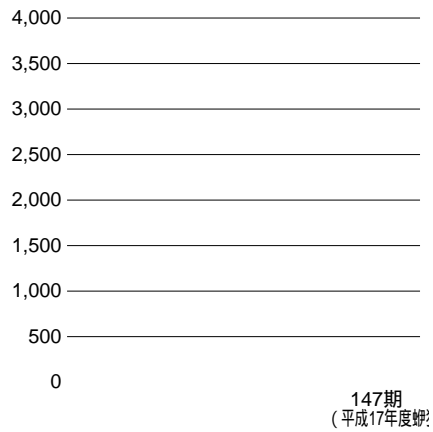
(単位：円)

科目	当期	前期
当期末処分利益	7,965,788,948	
当期末処理損失		6,928,724,771
任意積立金取崩額	1,204,778,167	10,774,439,675
固定資産圧縮積立金取崩額	1,204,778,167	1,274,439,675
別途積立金取崩額		9,500,000,000
計	9,170,567,115	3,845,714,904
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	2,478,240,648	1,341,764,242
1株につき6円50銭		1株につき3円50銭
(普通配当)	(1,334,437,272)	(1,341,764,242)
1株につき3円50銭		1株につき3円50銭
(創立90周年記念配当)	(1,143,803,376)	
1株につき3円		
取締役賞与金	86,000,000	
固定資産圧縮積立金	432,079,045	1,073,534,965
別途積立金	3,500,000,000	
次期繰越利益	2,674,247,422	1,430,415,697

(注) 1. 平成17年12月9日に1,341,604,894円(1株につき3円50銭)の中間配当を実施いたしました。

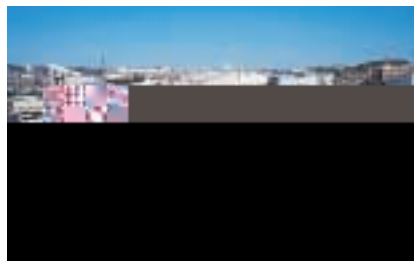
2. 固定資産圧縮積立金の取崩額および積立額は、租税特別措置法に基づくものであります。

業績の推移



連結子法人等

株式会社 Rond



本社工場外観

株式会社 Rond は昭和55年7月に明治製菓株式会社の100%出資子会社として創立しました。当社は、ボトルチョコレートや子供向け商品など自社ブランド品の生産・販売の

会社としてスタートしましたが、平成11年に自社ブランド品から撤退し、明治製菓品を主体とする生産子会社に生まれ変わり現在に至っております。

当社は、横浜市都筑区にあり首都圏のほぼ中心に位置しております。従業員数は350名で、明治製菓品の「ノワール」「チョコレート効果」「たけのこの里」「メルティーキッス」「ポポロン」「ピックアップ」「パーフェクトプラス」等を中心に生産し、平成18年3月期の売上高は41億7千万円となっております。

今後も明治製菓グループの中核企業として、「お客様に安全・安心を提供」し、喜んでいただける製品づくりに全社一丸となって取り組むとともに、「コンプライアンスの徹底」を定着させ「環境と調和」で地域社会に信頼される企業を目指してまいります。

主な製品

D.F. Stauffer Biscuit Co., Inc.



本社工場外観

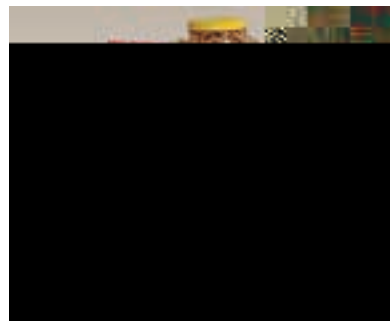
D.F. Stauffer Biscuit Co., Inc. は、米国ペンシルバニア州に本拠地を置く1871年創業の老舗ビスケット会社メーカーです。1990年に明治製菓株式会社が資本参加しグループの一員とな

った後、2004年には明治製菓株式会社の100%出資子会社となりました。ペンシルバニア州・ヨーク市以外に、ニューヨーク州・キューバ市にも工場を有し、さらにカリフォルニア州・サンタアナ市にも100%子会社であるラグーナ・クッキー社の工場があります。

クッキー、クラッカーを中心に大手スーパーマーケット、会員制クラブストア、ドラッグストア等を通じて全米へ商品を供給しており、2005年度の連結売上高は約145億円となっております。また、一部の製品は輸入品専門店等で日本でも販売されております。

主力商品は、「アニマルクラッカー」をはじめ、「チェダー・ホエール・クラッカー」「ジンジャースナップス・クッキー」、ラグーナブランドの高級クッキー等があります。特に熊の形をした容器にアニマルクラッカーを詰めたアニマルジャグシリーズは全米で人気商品となっております。

当社は、今後も明治製菓グループ海外事業の中核を担う企業として、事業の拡大を図るとともに、明治製菓グループが創り出す「おいしさ、楽しさ」を世界の人々に提供し続けてまいります。



主な製品

フード&ヘルスケア

「香り・味・コク・後引き感」
などのおいしさの要素をカカオ
豆で表現した、ミルク分を含ま
ない本格スイートチョコレート
です。カカオ分を63%含有し、
甘さ控えめで心地よい苦味が特
長です。

磨きをかけた口どけと、
とっておきの素材へのこだ
わり。イチゴチョコレート

テオプロ袋

香り豆と呼ばれる高品質のエクアドル産カカオ豆を贅沢に使用した大人のためのプレミアムココア。香りとコクのココアパウダーを絶妙にブレンドして、ピター感のある味わいを実現しました。

テオプロ ココア ミルク

マイルドタイプのココアを求める声にお応えし、テオプロシリーズにミルク贅沢なまるやかなココアが新登場。低温乾燥ミルクを使い、フレッシュ感と豊かな味わいをお届けします。

「ノワール」「チョコレート効果」など高カカオ分チョコレートが好調

「チョコレートダイエット」やカカオポリフェノールの健康機能が話題となり、特にカカオ成分の含有量の多いチョコレートがマスメディアで大きく取り上げられたことから、高カカオ分チョコレートや従来のビター系のチョコレートが大きく伸長しました。特にカカオ成分含有量が72%で、健康とおいしさ考えた大人向けの「チョコレート効果」の売上が好調でした。今後も有望な市場と考え、カカオ成分含有量99%の「チョコ

レート効果」等品揃えの強化を図ってまいります。また、大人のためのカカオをたのしむ本格的なスイートチョコレートとして、「ノワール」がその品質を高く評価され、大ヒットとなりました。

「キシリッシュ」爽やかなイメージと歌ガムが好評

ガムの市場規模が縮小傾向にあるなかで、当社「キシリッシュ」の売上は好調に推移しました。広告のコンセプトである「いい息、さわやかな息」を広く訴求するために、福山雅治さんを起用し、爽やかなイメージをコミカルなタッチで描いたテレビコマーシャルが大変好評でした。また、昨年の秋に展開した「歌ガムキャンペーン」では、デジタルツールを活用した仕組みが大きな反響を呼んで、ファン層も拡大し、ブランド全体として大きく伸長しました。

本年春には「モーニングライム」「梅プロッサム」を投入し、「朝専用ガム」という新たな食シーンの提案を行いました。

デプロメール社会不安障害（SAD）適応追加

2005年10月11日、当社薬品事業の主力製品のひとつである抗うつ薬「デプロメール」が、社会不安障害の効能追加における厚生労働省の承認をわが国で初めて取得しました。社会不安障害とは、人と会う、会議で意見を述べるなど、他人の前で行動する状況の中で過剰な不安を覚え、そのような状況を回避しようとするあまり、日常生活に支障をきたしてしまう障害です。また、患者さんによってはうつ状態に陥るなど、さらに重大な支障をきたすことがあります。「デプロメール」は、こうした患者さんの不安や恐怖を取り除くことで回避行動を減らし、患者さんの生活の質の向上に貢献することが期待されます。この度の社会不安障害の適応追加により、今後一層精神神経疾患の治療に貢献してまいります。

「スペシャリティ & ジェネリック・ファーマ」を目指して

新中期経営計画「DASH!08」においては、これまで医薬品事業で培ってきたノウハウとブランドイメージを基盤に、感染症治療薬・中枢神経系用薬に並ぶ柱としてジェネリック分野を強化し、「スペシャリティ & ジェネリック・ファーマ」という新しいビジネスモデルを確立していく方針です。ジェネリック医薬品は、政府による医療費抑制策を背景に今後急速な市場拡大が予測されています。当社は、1995年、新薬メーカーとしていち早く同分野に参入し、現在では高品質かつ安価で利便性に優れた「ユースフル」な製品を多数の医療機関に提供しています。一層の事業規模拡大を目指して、新薬とともにジェネリック分野を力強く推進し、「DASH!08」の目標達成と当社の発展に大きく貢献してまいります。



主な製品

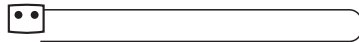
役員

(平成18年6月28日現在)

(平成18年3月31日現在)

東京都中央区京橋二丁目4番16号

株主メモ



お問い合わせ先

〒104 - 8002 東京都中央区京橋二丁目 4 番16号 電話(03)3272 - 6511(代表)